

2025年6月22日から27日にかけてシンガポールで開催された41st IAHR World Congressに参加した。私は”Development of fluid force measurement equipment for hydraulic experiments”という題目で口頭発表した。この研究は修士1年次に行っていた研究で、水理実験において洪水流中の家屋に作用する流体力を計測する機器を独自に開発したものである。発表したセッションは本研究領域とはかなり違う分野であったため活発な議論はできなかったが、少なからず関心をもってもらうことはできたように感じた。

本研修の大きな成果としては研究者との繋がりができたことである。私の博士課程の研究である内水氾濫の研究分野において重要な既往研究を遂行しているドイツの研究グループの発表があり、彼らの発表に対し質問をし、発表後にも個別に議論できたことは大きな収穫であった。一方で英語を話す能力、聞く能力がいずれも欠けていたために十分な議論ができたとは言い難く、非常に悔しい思いもした。今後は研究者として飛躍するためにも英語扱う能力を身に着けたいと感じた。

また、最終日には本学会に参加していた日本人の若手研究者が集う会（企画していただきました川池健司教授に感謝の意を表します）があり、日本人の若手同士のつながりができたことにもうれしく思った。

最後に、このたびの申請者の海外研修に助成いただきました京都大学土木会に深い感謝の意を表します。

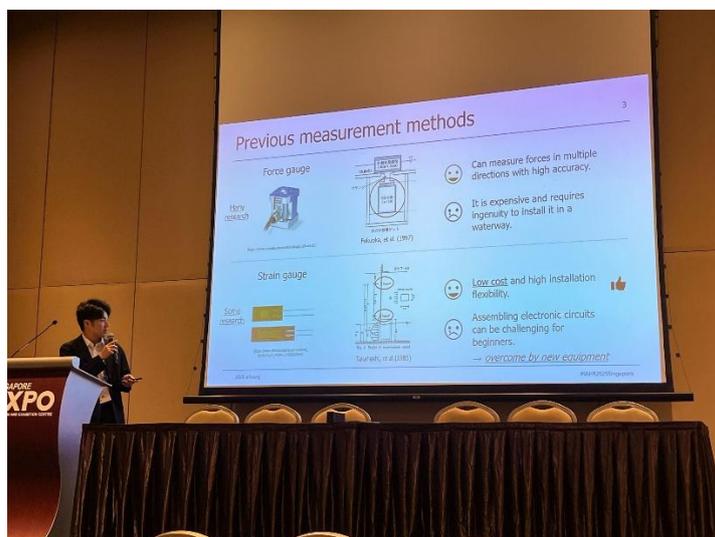


図 発表時の様子